

WILD SHOOTING ASSOCIATION (W.S.A.)

W.S.A. ルールブック

W.S.A. 実行委員会策定

2007年12月改訂

本ルールブックに規定されている内容で判断がつかない場合は、運営委員会または担当ジャッジの裁定により判断される。

WILD SHOOTING ASSOCIATION とは・・・。

WILD が主催するスピードシューティング競技会である。略称を W.S.A. という。

“1月～9月の競技会”と10月の“WILDシューティング祭”として開催する。

目的：エアガンを撃って遊ぶ、人によって遊び方は様々あるもの。

「真剣にタイムを狙う人」「スタイルにこだわる人」「的撃ちを楽しむ人」W.S.A. は、タイムだけにこだわりません。

シューティングをスポーツとして、安全に楽しく遊ぶための機会と場所を提供します。

1. 競技について

1) 参加資格

開催趣旨に賛同する、満10歳以上で心身ともに健全であれば参加資格を有する。

エントリーフィーを納めた者に限り、すべての開催競技への参加を認めることとする。

但し、満18歳に満たない者の参加については保護者の同伴もしくは、保護者の同意書（WILD 会員カード）を有した者のみ参加を認める。見学者については、この限りではない。

2) 開催日程

W.S.A. 競技会（以下「競技会」）は、毎年2月を除く1月から9月に月1回開催される月例競技会（以下「競技会」）と、毎年10月に開催されるシューティング祭で構成される。

開催日については開催月の第4日曜日を基本とする。また、やむなく開催の延期、中止に至る場合については実行委員会により決定し広報周知するものとする。

3) 担当ジャッジ、インストラクター制度

W.S.A. では競技参加者（以下「競技者」）および見学者は競技会開催中、運営、安全な競技進行において W.S.A. 実行委員会の定める担当ジャッジまたはインストラクターの指示に従わなければならない。

※ 便宜上の理由から W.S.A. 実行委員会委員、担当ジャッジ、インストラクターを総称して「ジャッジ」と呼ぶ場合もある。

ジャッジは、競技参加者ならびに見学者の安全確保には特段の注意を配し競技会の円滑な運営に努めることとする。

担当ジャッジまたはインストラクターは競技会または競技ステージの運営責任者として、競技中発生するすべてにおいて判断、裁定する権限を有し、必要な場合には競技参加者および見学者へ注意、警告、指示が行えることとする。また、初心者へは安全指導・技術指導を行う。

4) ランキング

ランキングは1年ごとに締め切られ、タイムの早い順番にS～Fクラスに分けられる。

ランキングは過去2年分のデータを保持することができるが、年間ランキングに採用されるタイムデータは当年度のタイムデータで計算する。

また、競技参加者には全員に認定証とライセンスカードが交付される。

クラス分けの判定基準は以下の通りとする。

Sクラス・・・・・・トップの記録から5秒以内

Aクラス・・・・・・トップの記録から5秒以上10秒以内の範囲

Bクラス・・・・・・トップの記録から10秒以上15秒以内の範囲

Cクラス・・・・・・トップの記録から15秒以上20秒以内の範囲

Dクラス・・・・・・トップの記録から20秒以上25秒以内の範囲

Eクラス・・・・・・トップの記録から25秒以上30秒以内の範囲

Fクラス・・・・・・トップの記録から30秒以上

※ 各クラスに定員はなく、判定基準のみによりクラス分けを行う。

5) タイムの計測

競技開始の合図としてブザー音が鳴り、競技者が試技を開始しコース規定のターゲットおよびストップターゲットのすべてをヒットすることにより終了となる。

また、すべてのターゲットはヒットしなければならない。(ここでのヒットとは、当てるだけではなくターゲットを打ち倒すことを言う。)

タイムの計測は、開始のブザーが鳴ってからストップターゲットをヒットするまでの間、タイマーにより自動計測される。

※ 10歳以上対象の競技銃を使用し、ターゲットに当たったが倒れない場合はジャッジの判定により“ヒット”と扱う特例措置を設けるが、それ以外の場合にジャッジの判定によるヒットはないものとする。

6) エントリーフィー

W. S. A. の各競技会に参加するために、競技参加者は以下に定めるエントリーフィーを支払わなければならない。毎年度の初参加時に支払う、登録料500円/年

毎月開催される競技会参加時に支払う、参加費1000円/月

競技参加者から支払われたエントリーフィーは、W. S. A. の運営及び、「会場使用料」「ターゲット代」「機器保全費」「その他雑費」などに使われ、会計監査を経て毎年10月の表彰式にて会計報告を行うこととする。

※ 一度支払われたエントリーフィーについての返却は行わないものとする。

7) 初回の競技参加

W. S. A. シューティングに初めて参加する競技者は、競技開始前にインストラクターから安全に競技を行うために必要なインストラクションを受けなければならない。

競技者がインストラクションを受けない場合は、競技を行うことは認めない。

8) 自己責任

W. S. A. の主催する競技会に参加することはすべてにおいて参加者または見学者各個人の責任となる。主催者および W. S. A. 実行委員会は安全確保には努めるが、開催中やむなく生じた競技者または見学者の身体の怪我、個人物品の破損、汚損などに対する責は負わないこととする。

また、その他に類することも同様とする。

9) 資格剥奪

以下に相当する行為を行った場合、即刻 W. S. A. の参加資格を剥奪し再度の参加を認めない。

- 故意に設置ターゲット、指定場所以外の物、人に発射すること。
- いかなる場合でも会場内で暴言、暴力を行うこと。
- その他、W. S. A. には相応しくないと W. S. A. 実行委員会で判断された場合も同様に、参加資格を剥奪できることとする。

10) 失格行為 (DQ)

以下に相当する著しく安全性を欠く行為を行った場合、失格 (DQ) となりその回での成績記録集計の対象外とする。

- 「暴発」競技者の意思に反し、ターゲット方向以外へ発射させた場合など。
- 「落下」装填済みの競技銃を地面や床に落下させた場合。
- 「指示違反」ジャッジの指示、注意、警告などに再三従わず、明らかに競技の進行の妨げと認められた場合。

その他の安全性を欠く行為を行った場合には、ジャッジより 1 回目は注意または警告が与えられ、その後も同様な行為を行い改善されないと判断された場合、失格 (DQ) となりその回での成績記録集計の対象外とする。

※ 例：銃口を安全な方向以外に向けた場合、未装填の競技銃を落下させた場合など。

※ 競技参加者が初心者の場合、失格 (DQ) とせず注意または警告に留める場合もある。

11) 終了不可 (DNF)

以下に相当する場合、「終了不可 (DNF)」としペナルティータイムを加算することとする。

- 試技途中に、何らかのトラブルにより試技を終了できない場合。(そのストリングスに対して“+30 秒”を加算する。)
- 競技参加者が用意した競技銃のすべてが使用不能となった場合。(以降、すべてのステージの記録タイムを 90 秒とする。また、トラブルが解消された場合は復帰を認める。)

※ 「終了不可 (DNF)」となった原因によってはリシュートとする場合もある。

2. 競技道具について

※ 競技初参加者もしくは競技銃を用意できない場合、事前の申し込みにより W.S.A. が用意する競技銃及び競技道具一式を有料にてレンタルすることができる。その際 1 日 1 0 0 円を支払うこととする。

1) 眼の保護

不意の事故を未然に防ぐため、競技参加者ならびに見学者は努めて各自で眼を保護する道具を用意しなければならない。

これらは一般の防塵用ではなく、専用に作られたもの（サバイバルゲーム用ゴーグルでも可）またはシューティンググラス、被弾時の衝撃に耐え得る強度を持つプラスチック製の眼鏡またはサングラスなどを使用するものとする。

眼の保護道具については、会場内の担当ジャッジの指示で付け外しを行い、会場内においては見学者を含むすべての人への装着を義務付けるものとする。

保護具を着用しない場合、会場内への立ち入りをきびしく制限する。

2) 使用できる競技銃

改正銃刀法に適合しており、エアソフトガンとして販売されているセミオート射撃が可能なもので、且つマニュアルセイフティなどの安全機構を備えているものに限る。

また、W.S.A. として改正銃刀法の 3.5 J/cm^2 よりも低い W.S.A. 自主規制値（単位面積あたりのジュール値約 3.0 J/cm^2 、初速ジュール換算では 6mmBB 弾では 0.85 J 以内、8mmBB 弾では 1.4 J 以内）を設け、この自主規制値を下回るものに限る。（詳細については「使用できる BB 弾」の項目にて後述する。）

但し、満 18 歳未満の競技参加者は各都道府県の「青少年健全育成条例」に基づいた発射威力である 0.135 J を上限とした競技銃を原則使用することとする。

また、使用する競技銃は競技開始前に開催会場にて W.S.A. が用意した弾速測定器で弾速の測定を行うこととする。これを拒否する場合には使用を認めない。

※ 競技参加者は事前に簡易測定器などで、使用する競技銃の弾速を計測しておくことが望ましい。

※ 改正銃刀法の定義する「準空気銃」に相当する物の会場への持込みは一切認めない。また、弾速の測定により「準空気銃」と判明した場合、持ち主を会場から退場させる場合がある。

改正銃刀法ならびに「準空気銃」に関する詳細は警察庁の HP などを確認することが望ましい。

以下を使用可能な競技銃の仕様とする。これに該当しない外見・機構・構造の場合はジャッジの裁定により使用可能か判定し判断決定されるものとする。

また、競技に使用する競技銃は W.S.A. の規定する自主規制値の範囲内であれば以下に大別する形態種別を問わず、自由に選択できることとする。

- オートマチックタイプ：ブローバックオート、固定スライド式、電動ハンドガンなどで競技銃本体よりマガジンが着脱可能なもので、シングルアクションまたはダブルアクション機能を有すること。
- リボルバータイプ：シリンダーが回転するものでライブカート式（コクサイ製・クラウン製など）、非ライブカート式（東京マルイ製など）でシリンダーより残弾を容易に取り除けること。
シングルアクションまたはダブルアクション機能を有すること。

構造上、残弾の確認、除去が困難な“ペガサスシステム”搭載の競技銃は使用を認めない。

※ フルオート及びバースト機能を有する一部のセレクトブルオート（例：東京マルイ製電動ハンドガンシ

リーズ、KSC製 M93R・G18Cなど)については、セミオート以外の発射位置の選択ができず容易にフルオートまたはバースト位置に切り替えることができない対策加工を施すこと。

競技銃の形態、作動機構は問わないが、装弾数が5発以上で一般的にハンドガンの範疇であることとする。但し、トリガーガードやセイフティ機能がないもの、ストックまたはフォアグリップ機能を有するものについての使用は認めない。

競技者は使用する競技銃を毎競技会につき2丁までエントリーさせることができる。

また、エントリーした競技銃が2丁とも故障した場合は、さらにもう1丁使用することができる。

競技参加者自らが用意したすべての競技銃が使用不能になった場合は、以降のステージすべてを「ステージの終了不可」と見なし、前述の「終了不可(DNF)」に規定するペナルティータイムを加算したタイムを記録タイムとする。

3) 競技銃の加工

競技銃の加工については、W.S.A.での自主規制値を超える過度のパワーアップは厳禁とする。

搭載するサイト形状に制限は設けない、ダットサイトなど光学式サイトの使用は認めるが、眼への影響を考慮しレーザーサイト、フラッシュライト類の装着、点灯使用は認めないものとする。

外見および内部機構は、安全なパーツでのカスタマイズを自由に認める。しかし、加工内容によってはジャッジが危険と判断した場合、その競技銃の使用を停止させる場合もある。

4) 使用できるBB弾

競技に使用できるBB弾は6mmまたは8mmのプラスチック製、バイオまたはセミバイオプラスチック製のもので、6mmBB弾は0.25gまで、8mmBB弾は0.35gまでとする。

※ W.S.A.自主規制範囲内での各BB弾重量でのおおよその上限初速を以下の換算表に示す。

ジュール値換算表			
BB弾重量 (g)	上限初速 (m/s)	ジュール値 (J)	ジュール値 (J/cm ²)
0.12 (6mm)	119.0	≒0.85	3.0
0.20 (6mm)	92.2	≒0.85	3.0
0.23 (6mm)	86.0	≒0.85	3.0
0.25 (6mm)	82.5	≒0.85	3.0
0.27 (8mm)	101.8	≒1.4	3.0
0.34 (8mm)	90.7	≒1.4	3.0
0.35 (8mm)	89.4	≒1.4	3.0

※ 初速を用いたジュール値は、 $J = \text{初速}^2 \times \text{弾重量} \div 2000$ の計算式にて求め、換算表は少数点第3位切り上げにて表示。

※ 改正銃刀法の定める単位面積あたりのジュール値 3.5 J/cm^2 とは、初速を用いたジュール値に置き換えた場合、6mmBB弾では約0.98J、8mmBB弾では約1.64Jに相当する。また、改正銃刀法の定める単位面積あたりのジュール値計算は、弾の前方の頂点より0.3cmの部分での半径で算出することができる。

明記されていることから、この場合に6mmBB弾では0.3cm、8mmBB弾では0.387cmが半径の値となる。

初速ジュール値から単位面積あたりのジュール値を求める際の計算式は $x J \div \pi \div r \div r = y J / \text{cm}^2$ となる。また、単位面積あたりのジュール値を、初速を用いたジュール値に換算するための計算式は、 $3.5 (\pi r^2)$ となる。

※ 目安としてASGK簡易弾速測定器において0.2gの6mmBB弾であれば3枚貫通し4枚目を貫通しないのであれば0.8J前後であると判断できる。

0.34gの8mmBB弾であれば4枚貫通し5枚目を貫通しないのであれば1.3J前後であると判断できる。

5) パワースース

日本国内においての安全基準を満たしている物のみ使用を認める。(HFC134a、HFC152a混合、グリーンガス、圧搾空気、バッテリー)

外部パワースースを利用する場合、競技銃本体またはマガジンとレギュレーターとの接続が容易に着脱できないもの。

レギュレーター(固定・可変問わず)などは最高吐出圧までのどの圧力でも、W.S.A.が定めるパワー自主規制値を超えないような安全対策を施してある機材のみ使用を認めることとする。

※ 安全対策とは、可変レギュレーター昇圧機構の固定や安全弁などを設けることにより、高圧が発生した場合でも規定の初速範囲を超えない圧力に制限される機構の追加を施すなどのことである。

6) ホルスター

以下を使用可能なホルスターの仕様とする。これに該当しない外見・機構・構造の場合はジャッジの裁定により使用できるか判断することとする。

競技者の利き手側の腰辺り(身体側面の中心線より前方)に装着でき、競技銃の保持に問題がなく容易に競技銃が落下しないためのロック機構を有するもの。また、トリガー部分が露出しないもの。大別してヒップホルスター、サイホルスター(太ももに装着)またはレース用ホルスターであること。

安全面からショルダーホルスター(肩に装着)、バックサイドホルスター(腰の後に装着)、クロスドロウとなる装着方法およびドロウ方法は認めない。

また、装着位置についてジャッジが指示する場合がある。

材質、形状、ロック方式は規定内であれば自由に選択できることとする。

7) その他

競技銃は安全に運搬するためにバッグ、ガンケースもしくはカバーなどの入れ物に収めなくてはならない。特に会場外では入れ物から出すことを固く禁止する。

過度のカモフラージュウェア、ミリタリーウェアを着用しての会場への来場、会場からの外出は一般の通行人ほかへの誤解を生じさせないために制限する。

会場内では良識の範囲内において安全であれば服装は自由とする。

3. 安全に関するマナーと競技の流れについて

※ 競技参加者は、競技を安全に円滑に行うために安全に関するマナー、競技を行うための流れを理解し守らなければならない。

1) マナー

- 競技銃を、本物の銃と同じ同様に扱い安全には十分配慮する。
- 競技者は、自分の順番以外では競技銃を BB 弾未装填状態にし、ホルスターまたはバッグなどの入れ物に収めておく。
- 試技中であっても、銃口はターゲット設置方向以外には向けない。レンジ内では上下 90°、左右 180° の範囲内で銃口のコントロールをしなければならない。(180° ルール)
- 試技中、競技銃にトラブルが発生し続行不能になった場合は、銃口はターゲット方向へ向けたままジャッジに申告する。その時点でタイマー計測はストップする。(DNF)
- 不用意にシューティングレンジ内に立ち入らない。また、他の競技者の邪魔になるような行為を行わない。

2) 競技の流れ

※ 競技者が試技の開始前から、終了までに行わなければいけない一連の動作であり競技者は理解しておく必要がある。(ジャッジの号令、言葉の意味については後述する。)

1. “入場”：競技者は、シューティングレンジがクリアとなり、ジャッジの順番を告げる「コール」を受け、競技銃をホルスターもしくは入れ物に収めた状態で「シューティングボックス」に入る。この時、競技銃にはマガジンなどが未装着の状態で行わなければならない。
2. “ロードアンドメイクレディ”：ジャッジの「ロードアンドメイクレディ」の号令により競技銃をホルスターもしくは入れ物から取り出し、ダウンレンジに向かった状態で競技銃にマガジン、カート、BB 弾をロードした後、速やかに使用する競技銃種別のレディ状態でホルスターに戻す。(競技銃種別毎のレディ状態については後述する。) ドローのチェック、サイトのチェックなどは「ロードアンドメイクレディ」の号令があり、競技銃にまだロードしていない状態で短時間に行う。リボルバータイプのロード、アンロード時においては上下 90° ルールを適用しない。(リボルバーの特例措置) 競技銃への最大装填弾数は 15 (マガジン、シリンダー) + 1 (チェンバー) までとする。スペアマガジン、ローダーについても同様とする。
3. “レディ①”：競技者は、試技の準備が整った場合、ステージ規定の“レディポジション”を取る。ジャッジが競技者の適正なレディポジションを取っていると確認できれば、競技者に「アーユレディ？」と声をかける。
4. “レディ②”：競技者は、問題がなければ軽くうなずくなどで準備完了の意思を伝える。もし、準備ができていなければジャッジに「準備未完了」であることを伝える。ジャッジは競技者が準備を完了するまで 3, 4 の確認を繰り返す。
5. “スタンバイ”：ジャッジは競技者が準備を完了したと判断した場合、「スタンバイ」の号令をかける。競技者は「スタンバイ」の号令がかかった後は、開始のブザー音が鳴るまで規定の“レディポジション”のまま静止する。
6. “スタート”：開始のブザー音で、競技者は試技を開始しストッププレートヒットさせ試技を終

了させる。

7. “アンロード・ショウクリア”：競技者は、試技の終了を確認できた場合、競技銃からマガジン、カート、BB弾を取り除きマガジン挿入部などを見せアンロード状態であることをジャッジに確認させる。オートマチックはスライドを引きチェンバー内も空にする、リボルバーはシリンダーをオープン状態にする。構造上、内部に残弾が発生する場合はマズルプロテクターなどを装着する。
8. “ガンクリア”：ジャッジは競技銃がアンロードされ撃てないことを確認し「ガンクリア」をコールする。
9. “ハンマーダウン・ホルスター”：ジャッジの号令でオートマチックはスライドを引き戻し、トリガーを引いてハンマーをダウンさせる。固定スライドの場合はトリガーを引いてハンマーをダウンさせる。リボルバーはシリンダーを戻しトリガーを引いてハンマーをダウンさせる。競技銃が撃てる状態ではないことをアピールするため必ずドライファイアさせなければならない。（一部ドライファイアができない競技銃については、マズルプロテクターなどを装着し同様の状態をとればドライファイアを免除する特例措置を設ける。）
10. “退場”：ジャッジは試技が完全に終了し、レンジ内が安全であると確認できれば「レンジイブクリア」をコールする。競技者はこの号令の後レンジより退場し、これより競技者以外でもレンジ内に立ち入ることが許される。

競技銃種別のレディ状態		
競技銃種別	レディ状態	該当機種
①オートマチック (SA)	チェンバーにロードしハンマーがコックされセイフティをかけた状態（コック&ロック）で待機。	ガバメント系 デザートイーグル ベレッタM93R など
②オートマチック (DA)	チェンバーにロードしハンマーをダウンした状態で待機。セイフティをかける必要はない。	ベレッタM92F系 グロック系 SIG系 など
③オートマチック (SA+DA)	①または②の一方を選択できる。	CZ75系 USP系 など
④リボルバー (SA+DA)	シリンダーにロードしハンマーをダウンした状態で待機。セイフティをかける必要はない。	マルイリボルバー系 コクサイリボルバー系 など

※ SA：シングルアクション DA：ダブルアクション SA+DA（オートマチック）：SA、DAが選択できコック&ロックできるもの。

※ 号令・言葉の意味：

「ロードアンドメイクレディ」とは、競技銃に弾を込めて準備をしましょう程度であり強制とはならない。
「レディポジション」とは、ハンズアップの場合は肩のラインから上に両手首を位置させるポジション、ナチュラルスタンバイの場合は両手を自然な状態に下ろすポジションである。

「スタンバイ」とは、規定のレディポジションを保ったままの姿勢で静止すること。

「ロード」とは、弾を装填すること、またその逆に「アンロード」は弾を抜くこと。

「ドライファイア」とは、空撃ちのこと。

「ダウンレンジ」とは、ターゲットが設置されているレンジ方向。また、その逆で観覧席方向を「アップレンジ」と言い銃口を向けてはならない方向である。

4. 記録の集計について

1) 記録タイム

一回の競技会での記録タイムは、5ステージ分の合計タイムとなり開催回毎に集計を行う。

競技会は1～5のステージで構成され、各ステージは5ストリングス（5回の試技）で構成される。

一つのストリングスの記録タイムは、競技開始から終了までに掛かったタイムにペナルティータイムを加算するタイム加算方式とする。

一つのステージの記録タイムは、5ストリングス中の最短タイムを含め少ない方から3つの合計タイムとする。

各ステージは最低3ストリングス分の記録タイムを必要とし、何らかの理由により計3ストリングス分の記録タイムが残せなかった場合、そのステージは「ステージの終了不可 (DNF)」となり記録タイムに“60秒”を加算することとする。

毎年度の、初回参加時に記録した記録タイムをベース記録とし、開催年度期間内であればそれより好タイムの場合はベースとなる記録タイムを書き換えることができるものとする。

2) 記録の集計

記録タイムの集計は、各ステージ終了後のステージ集計と、競技会での全競技終了後の競技会集計と、開催年度最終競技会後の年度最終集計があり、それぞれの集計行為は実行委員ならびにジャッジ、インストラクターにて行うこととする。

また、失格 (DQ) となった場合については成績記録集計の対象としないこととする。

3) 成績の発表

競技会での成績は、競技終了当日もしくは後日に集計結果表としてその回の競技参加者全員分作成され、WILDにて受け取ることができるものとする。

4) 成績記録の異議不服

競技参加者は集計された成績に対し、異議または不服がありその旨申し立てる権利を有する。

また、その場合は開催月の翌月10日または成績記録表の公開日より概ね1週間とし、W.S.A. 実行委員会 (役員) もしくはWILDまでその旨申し立てることとする、期限後での申し立てはこれを認めないこととする。

5) 表彰

毎年、10月に行われるWILDシューティング祭終了後に表彰式を行う。

W.S.A. よりその年度内で参加し成績記録を残した競技参加者全員に、認定証の授与および表彰対象者への表彰を行う。(ライセンスカードについては、翌年度の初回開催時(1月)に交付する。)

また、W. S. A. が表彰する対象は以下の通りとする。

- 年間ランキングが1位の競技参加者。(賞状ならびにトロフィーの授与)
- 競技会への皆勤参加した競技参加者。(賞状の授与)
- 前年度の年間ランキングより1クラス以上上昇した競技参加者。(賞状の授与)
- その他、W. S. A. での功績が認められた競技参加者。(賞状の授与)

※ WILDシューティング祭での成績は、別途の表彰とする。

5. ペナルティーについて

1) ペナルティータイムの加算

試技中、以下に規定する行為もしくはミスを行った場合、その試技での記録タイムに“+30秒”または、“+3秒”のペナルティータイムを加算することとする。

- ストップターゲットをヒットした時点で、まだコース上に撃ちもらしたターゲットがあった場合。“+30秒”のペナルティータイムを加算する。
- 競技銃のトラブルによりストリングスを終了できなかった場合。“+30秒”のペナルティータイムを加算する。(場合によってはリシュートさせる場合がある。)
- レンジおよびシューティングボックスにホルスターもしくは入れ物に入れず、競技銃を手にしたまま入場した場合。“+3秒”のペナルティータイムを加算する。
- スタンバイ姿勢の際、両手首が肩のラインより上に位置していない場合、またはコース規定のスタンバイ姿勢をとっていない場合。“+3秒”のペナルティータイムを加算する。
- 試技開始前のスタンバイ状態中に、待機姿勢を崩した場合。“+3秒”のペナルティータイムを加算する。
- ドローの際、早期にセイフティを解除した場合。“+3秒”のペナルティータイムを加算する。
- トリガーに触れる、またはトリガーガード内に撃つ際以外で指を入れた場合。“+3秒”のペナルティータイムを加算する。
- 試技中、シューティングボックスを示すラインを踏み越えた場合。“+3秒”のペナルティータイムを加算する。
- 上下90°、左右180°の範囲内で銃口のコントロールを行わなかった場合。“+3秒”のペナルティータイムを加算する。
- ジャッジの指示または許可されたエリア以外で競技銃にロードした場合。“1回につき+3秒”のペナルティータイムを加算する。

6. W. S. A. の運営について

1) W. S. A. 実行委員会

WILD SHOOTING ASSOCIATION (W. S. A.) の運営にあたり「W. S. A. 実行委員会」を設置する。

W. S. A. 実行委員会の長は、WILD 伊藤代表とする。その配下、運営に従事する役員として、競技会々長、書記、記録、機器設備、その他を選定する。W. S. A. 実行委員会委員(役員)は毎年の競技会開催前までに委員長より任命される。また、必要な都度、委員会を招集し会議を行うこととする。議題採決の際には、多数決方式を以って採決決定されることとする。

2) 役割

W. S. A. 実行委員会ならびに委員（役員）は、他の競技参加者の模範となるよう努め、W. S. A. の運営に関する企画全般、競技会の運営、進行、ルールの策定、競技会でのジャッジ、記録集計、発表、機材の製作、整備保全、各種連絡、広報活動、競技参加者の育成などを行うこととする。

3) その他

本ルールブックは、W. S. A. 実行委員会の承認を受け、改定、交付されるものとする。

本ルールブックに不備が見つかった場合は、協議の上改定されるものとする。

W. S. A. に関する資料、W. S. A. ルールブックは競技参加者であれば誰でも閲覧ができることとする。

以上 W. S. A. 実行委員会